

<u>科目名</u>	<u>科目担当代表教員</u>	<u>ページ数</u>
英語学特殊研究	高橋 保夫	2
英語文献翻訳実践演習A	高橋 保夫	7
研究方法論B	高橋 保夫	12
研究方法論B	魯 諍	17
研究方法論B	高橋 保夫	22
研究方法論B	Richardson Peter	27
研究方法論B	小西 正人	32
特別課題研究 I	Richardson Peter	37
特別課題研究 I	小西 正人	44
特別課題研究 I	岡本 佐智子	51
特別課題研究 I	高橋 保夫	58
特別課題研究 I	高橋 保夫	65
特別課題研究 I	魯 諍	72
中国学特殊研究 I	魯 諍	79
中国語文献翻訳実践演習A	野間 晃	84
日本言語文化特殊演習	小西 正人	89

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 英語・英米文化コミュニケーション領域					
科目名		英語学特殊研究				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	高橋 保夫						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーとの関連で言えば、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えているを達成する科目である。							
授業の概要							
われわれは日常生活の中でさまざまな現象に取り囲まれているが、一見無秩序に思われる現象にもその背後には秩序、規則性が潜んでいる。ことばに目を転じれば、その背後にもやはり規則性が潜んでいるのである。本授業では、英語という言語に内在している規則性を発見し、明らかにしていくことを目指す。とくに、ことばを科学的に研究する学問である言語学、その一部門である英語学、さらにその中核をなす統語部門に関する理解を深めていく。							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・英語のしくみを深く理解できるようになる。 ・文献の読み方に習熟できるようになる。 ・論理的なものの考え方ができるようになる。 							
授業の方法							
はじめは板書を使った講義形式、適宜輪読・発表形式に移行する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
授業内での発表、提出物にはコメントをする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 授業の概要、進めかた、評価方法などについて説明する。 生成文法の研究プログラム	受講動機について尋ねられるので、準備しておく。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第2回	句構造(1) 構造的多義性 規則の定式化	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第3回	句構造(2) 句構造の機能的性格	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第4回	句構造と移動(1) 英語疑問文における主語と助動詞の語順転換	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			

第5回	句構造と移動(2) 文法関係と構造関係 句構造の変形	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第6回	英語助動詞システムにおける主要部移動	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第7回	動詞句(1) 英語の場合	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第8回	動詞句(2) 日本語の場合	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第9回	名詞句の内部構造	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第10回	動詞句の内部構造	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			

第11回	Xバー理論	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第12回	Xバー理論と文の内部構造	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第13回	否定極性と文構造(1) 否定極性	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第14回	否定極性と文構造(2) c-command条件	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第15回	主語の位置と否定極性	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表(40%)、課題提出(40%)、質疑応答(20%)	

その他	0	
教科書		
『生成文法』渡辺明 東京大学出版会		
参考文献		
授業内に適宜指示する。		
履修条件・留意事項等		
予習・復習をしっかりとすること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科	大学院 グローバルコミュニケーション研究科						
区分	コミュニケーション・言語文化 英語・英米文化コミュニケーション領域						
科目名	英語文献翻訳実践演習A					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	高橋 保夫						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーとの関連で言えば、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えていることを達成するための科目である。「英語文献翻訳実践演習B」と関連を持つ。							
授業の概要							
本授業では英語から日本語への翻訳を行う。テキストとして、世界的に著名な言語学者である David Crystal が書いた非常にわかりやすいことばに関する本である、A Little Book of Language を用い、ことばに関する知識を得ながら、翻訳を学ぶ。							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・英語の文献が読めるようになる。 ・理解した内容を日本語らしい日本語にすることができるようになる。 ・日英語そして日英の文化の違いについての知識を深めることができる。 							
授業の方法							
はじめは板書を使った講義形式、適宜輪読・発表形式に移行する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
授業内での発表、提出物にはコメントをする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 授業の概要、進めかた、評価方法などについて説明する。 ACCENTS AND DIALECTS	受講動機について尋ねられるので、準備しておく。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第2回	BEING BILINGUAL	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第3回	THE LANGUAGES OF THE WORLD	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第4回	THE ORIGINS OF SPEECH	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			

第5回	MODERN WRITING	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第6回	SIGN LANGUAGES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第7回	COMPARING LANGUAGES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第8回	DYING LANGUAGES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第9回	LANGUAGE CHANGE	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第10回	LANGUAGE VARIATION	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			

第11回	LANGUAGE AT WORK	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第12回	SLANG	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第13回	DICTIONARIES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第14回	ETYMOLOGY	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第15回	PLACE NAMES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表(40%)、課題提出(40%)、質疑応答(20%)	

その他	0	
教科書		
A Little Book of Language / David Crystal / Yale University Press		
参考文献		
授業内に適宜指示する。		
履修条件・留意事項等		
予習・復習をしっかりとすること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		研究方法論B(秋入学者用 渡部 淳)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	高橋 保夫、渡部 淳						
授業の位置づけ							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。</p>							
授業の概要							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文とは何かを説明できる。 2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。 3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。 4. 先行研究を批判的に読むことができる。 5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。 6. パワーポイントによる発表ができる。 							
授業の方法							
<p>配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講生は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。</p>							
ICT活用							
<p>メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとりて考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			
第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員			

第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			
第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員			
第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員			

第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献にあたり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員			
第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでもおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。

その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		
各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		研究方法論B(秋入学者用 魯 諍)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	魯 諍						
授業の位置づけ							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。</p>							
授業の概要							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文とは何かを説明できる。 2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。 3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。 4. 先行研究を批判的に読むことができる。 5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。 6. パワーポイントによる発表ができる。 							
授業の方法							
<p>配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。</p>							
ICT活用							
<p>メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとりて考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			
第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員			

第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			
第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員			
第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員			

第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献にあたり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員			
第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでもおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。

その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		
各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		研究方法論B(秋入学者用 高橋 保夫)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	高橋 保夫						
授業の位置づけ							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。</p>							
授業の概要							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文とは何かを説明できる。 2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。 3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。 4. 先行研究を批判的に読むことができる。 5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。 6. パワーポイントによる発表ができる。 							
授業の方法							
<p>配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講生は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。</p>							
ICT活用							
<p>メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとりて考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			
第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員			

第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			
第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員			
第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員			

第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献にあたり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員			
第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでもおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。

その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		
各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科	大学院 グローバルコミュニケーション研究科						
区分	コミュニケーション・言語文化 共通科目A						
科目名	研究方法論B(秋入学者用 Richardson Peter)					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	Richardson Peter						
授業の位置づけ							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。</p>							
授業の概要							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文とは何かを説明できる。 2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。 3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。 4. 先行研究を批判的に読むことができる。 5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。 6. パワーポイントによる発表ができる。 							
授業の方法							
<p>配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講生は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとりて考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			
第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員			

第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			
第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、最小一つは図や表にしておく(90分)
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員			
第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員			

第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献にあたり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員			
第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでもおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。

その他	0	学会水準に達しているかどうか。
教科書		
論文ワークブック／浜田麻里ほか／くろしお出版、ほか研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		
各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		研究方法論B(秋入学者用 小西 正人)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	小西 正人						
授業の位置づけ							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究 I・II」の基礎科目となる。</p>							
授業の概要							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文とは何かを説明できる。 2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。 3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。 4. 先行研究を批判的に読むことができる。 5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。 6. パワーポイントによる発表ができる。 							
授業の方法							
<p>配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。</p>							
ICT活用							
<p>メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとりて考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。 受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			
第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員			

第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			
第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員			
第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員			

第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献にあたり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員			
第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでもおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。

その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		
各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科	大学院 グローバルコミュニケーション研究科						
区分	コミュニケーション・言語文化 共通科目A						
科目名	特別課題研究 I (春入学者用) (Richardson Peter)						ナンバリング
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分		単位	3
担当教員	Richardson Peter						
授業の位置づけ							
<p>受講生の各専門領域において深く研究したい領域の問題や事柄を論文にまとめ、発表できる能力を身につける科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めるとともに、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけ、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。1年次に「研究方法論」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究Ⅱ」に連動する。</p>							
授業の概要							
<p>修士論文完成のための具体的な論文作成指導を行う。 受講生は本論の一部を完成し、学会で発表できるようにするため、より論定の明解な文章の書き方を主体的に学んでいく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門研究領域について具体的に解説できる。 2. よい論文とは何かが説明できる。 3. 先行研究を批判的に読むことができる。 4. 論文テーマを深め、自律的に研究できる。 							
授業の方法							
<p>調査方法の学習と問題提起、ディスカッションを中心とする。 特に、先行研究や資料の収集方法と、そこから得た知見を応用して論文執筆したり、発表したりすることができるように演習形式をとる。</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
課題提出は、当日に口頭で内容確認のうえ指導するか、次回にコメントを添えて返却する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	院生は論文作成のための進捗状況および研究計画について説明する。	論文テーマの確認をして説明できるようにしておく(90分)	論文テーマの資料整理をしておくこと(90分)
担当教員			
第2回	論文のテーマを具体的に明文化していく。	論文の序論部分を完成しておく(90分)	序論部分を修正し、研究目的を明らかにする(90分)
担当教員			
第3回	論文テーマに関する代表的な先行研究文献2つを読み、自身の論文に参考になる部分を押さえておく。	先行研究文献2つを読み、引用できる部分を文章化しておく(90分以上)	先行研究の2文献を再度精読し、引用部分を整理しておく(90分以上)
担当教員			
第4回	論文テーマに関する最も新しい文献2冊を読破し、引用部分をレポートにまとめる。	先行研究論文を2件、熟読してまとめておく(90分以上)	先行研究を1文献追加し、引用部分をまとめておく(90分以上)
担当教員			

第5回	論文作成に必要な参考・引用文献のリストを作成し、どの部分が論文作成に重要であるかを確認できるよう、レポートにまとめる。	これまでの先行研究で参考にした文献リストを作成しておくこと(90分以上)	先行研究の論点をまとめ、引用・参考文献の見直しをしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	参考文献・資料をまとめたレポートを提出し、内容について質疑応答する。	参考文献・資料の引用部分とその前後の文脈も加筆してレポートにしておく(90分以上)	研究テーマで不足している参考文献・資料を入手し、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			
第7回	学会研究発表会または研究会に向かって、論文の内容構成とテーマ等を再考し、その一部を取り上げて発表用資料を作成する。	論文構成を見直し、問題点と仮説、その論拠と提案までをどのような流れで論証するか明文化しておくこと(90分以上)	論文構成を確立し、これからさらに研究を深める必要のある文献にあたっておくこと(90分以上)
担当教員			
第8回	学会発表会または研究会用の抄録、概要を提出する。修正・訂正が必要な部分の検討を行う。そして中間発表用の論文発表分を完成する。	研究発表会用の配布資料等を作成しておくこと(90分以上)	論文の題名、副題、章立て、節など、内容の校正確認(90分以上)
担当教員			
第9回	学会等研究発表会のプレゼン練習を行う。併せて研究発表に必要な配布資料の確認・検討をする。	研究発表会用のプレゼンテーション準備をしておくこと(90分以上)	学会発表用のスライドの再検討、配布資料の修正をしておく(90分以上)
担当教員			
第10回	公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。	研究発表会で指摘された部分を再考し、修正した論文に直しておく(90分以上)	論文をどんどん書き進めていく(90分以上)
担当教員			

第11回	公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。	本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)	論文を最小30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)
担当教員			
第12回	論文作成 書けた部分から提出し、指導を受ける。 論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。	40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)	これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)
担当教員			
第13回	論文作成 引き続き、作成した論文を順次提出し、指導を受ける。	40%の部分(5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)	書きあげた各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)
担当教員			
第14回	論文作成 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	とにかく少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第15回	論文の50%分を提出し、研究内容の概要をプレゼンする。 論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを発表していく。	論文完成50%を最小の到達とし、研究内容を発表できるようにしておく(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員			
第16回			
担当教員			

第17回			
担当教員			
第18回			
担当教員			
第19回			
担当教員			
第20回			
担当教員			
第21回			
担当教員			
第22回			
担当教員			

第23回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の指定課題提出100%	
その他	0		
教科書			
プリントを配布／配信する。			
参考文献			
研究内容に関する先行研究を適宜紹介していく。			
履修条件・留意事項等			
資料や文献収集に丁寧に地道に取り組み、自律した学習姿勢であることを期待する。			
備考欄			



2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		特別課題研究 I (春入学者用) (小西 正人)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分		単位	3
担当教員	小西 正人						
授業の位置づけ							
<p>受講生の各専門領域において深く研究したい領域の問題や事柄を論文にまとめ、発表できる能力を身につける科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めるとともに、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけ、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。1年次に「研究方法論」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究Ⅱ」に連動する。</p>							
授業の概要							
<p>修士論文完成のための具体的な論文作成指導を行う。 受講生は本論の一部を完成し、学会で発表できるようにするため、根拠を明示し論証するより良い方法を学ぶとともに、より論定の明解な文章の書き方を主体的に学んでいく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門研究領域について具体的に解説できる。 2. よい論文とは何かが説明できる。 3. 先行研究を批判的に読むことができる。 4. 論文テーマを深め、自律的に研究できる。 							
授業の方法							
<p>調査方法の学習と問題提起、ディスカッションを中心とする。 特に、先行研究や資料の収集方法と、そこから得た知見を応用して論文執筆したり、発表したりすることができるように演習形式をとる。</p>							
ICT活用							
<p>適宜、メールやクラウド等を用いて授業外でも指導を行うとともに、インターネット上の資料や参考サイトなどを共有する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
課題提出は、当日に口頭で内容確認のうえ指導するか、次回にコメントを添えて返却する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	院生は論文作成のための進捗状況および研究計画について説明する。	論文テーマの確認をして説明できるようにしておく(90分)	論文テーマの資料整理をしておくこと(90分)
担当教員			
第2回	論文のテーマを具体的に明文化していく。	論文の序論部分を完成しておく(90分)	序論部分を修正し、研究目的を明らかにする(90分)
担当教員			
第3回	論文テーマに関する代表的な先行研究文献2つを読み、自身の論文に参考になる部分を押さえておく。	先行研究文献2つを読み、引用できる部分を文章化しておく(90分以上)	先行研究の2文献を再度精読し、引用部分を整理しておく(90分以上)
担当教員			
第4回	論文テーマに関する最も新しい文献2冊を読破し、引用部分をレポートにまとめる。	先行研究論文を2件、熟読してまとめておく(90分以上)	先行研究を1文献追加し、引用部分をまとめておく(90分以上)
担当教員			

第5回	論文作成に必要な参考・引用文献のリストを作成し、どの部分が論文作成に重要であるかを確認できるよう、レポートにまとめる。	これまでの先行研究で参考にした文献リストを作成しておくこと(90分以上)	先行研究の論点をまとめ、引用・参考文献の見直しをしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	参考文献・資料をまとめたレポートを提出し、内容について質疑応答する。	参考文献・資料の引用部分とその前後の文脈も加筆してレポートにしておく(90分以上)	研究テーマで不足している参考文献・資料を入手し、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			
第7回	学会研究発表会または研究会に向かって、論文の内容構成とテーマ等を再考し、その一部を取り上げて発表用資料を作成する。	論文構成を見直し、問題点と仮説、その論拠と提案までをどのような流れで論証するか明文化しておくこと(90分以上)	論文構成を確立し、これからさらに研究を深める必要のある文献にあたっておくこと(90分以上)
担当教員			
第8回	学会発表会または研究会用の抄録、概要を提出する。修正・訂正が必要な部分の検討を行う。そして中間発表用の論文発表分を完成する。	研究発表会用の配布資料等を作成しておくこと(90分以上)	論文の題名、副題、章立て、節など、内容の校正確認(90分以上)
担当教員			
第9回	学会等研究発表会のプレゼン練習を行う。併せて研究発表に必要な配布資料の確認・検討をする。	研究発表会用のプレゼンテーション準備をしておくこと(90分以上)	発表用のスライドの再検討、配布資料の修正をしておく(90分以上)
担当教員			
第10回	発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告し、公開発表会への準備をしておく。	研究発表会で指摘された部分を再考し、修正した論文に直しておく(90分以上)	論文をどんどん書き進めていく(90分以上)
担当教員			

第11回	修士論文の書き方および構成を再度点検し、全体の30%程度「完成」したものを提出し、指導を受ける。	本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)	論文を最小30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)
担当教員			
第12回	論文作成 書けた部分から提出し、指導を受ける。 論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。	40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)	これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)
担当教員			
第13回	論文作成 引き続き、作成した論文を順次提出し、指導を受ける。	40%の部分(5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)	書きあげた各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)
担当教員			
第14回	論文作成 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第15回			
担当教員			
第16回	参考文献の書き方を再チェックし、不備がないかどうか確認する。	参考文献に不備がないか確認しておく(30分)	不備があった参考文献を正しい書式で書き直す(120分)
担当教員			

第17回	論文作成 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第18回	先行研究のまとめについて確認する。特に先行研究の読み違いがないかどうか、改めて読み込んで確認する。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第19回	大きな論の流れに齟齬や無駄がないかどうか、ストーリーとして話してみ確認する。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第20回		少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第21回	先行文献に見落としがないか、さらに最新の研究がないか、インターネットだけでなく図書館でも確認する。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第22回	これまでの執筆部分を読み直し、論拠不十分の部分や論証の飛躍がないか、あるいは説明不足の部分がないか確かめる。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			

第23回	論文の50%分を提出し、研究内容の概要をプレゼンする。論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを発表していく。	論文完成50%を最小の到達とし、研究内容を発表できるようにしておく(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
------	---	--	--

担当教員	
------	--

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の指定課題提出100%
その他	0	

教科書

プリントを配布／配信する。

参考文献

研究内容に関する先行研究を適宜紹介していく。

履修条件・留意事項等

資料や文献収集に丁寧に地道に取り組み、自律した学習姿勢であることを期待する。

備考欄



2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		特別課題研究 I (春入学者用) (岡本 佐智子)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分		単位	3
担当教員	岡本 佐智子						
授業の位置づけ							
<p>受講生の研究対象とする各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている(知識・技能)ことを目的とし、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけている(思考・判断・表現)ことを課する科目である。「研究方法論A・B」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究Ⅱ」に連動する。</p>							
授業の概要							
<p>修士論文完成のための具体的な論文作成指導を行う。 受講生は修士論文の一部を完成し、それを研究会や学会で発表できるように深めていく。論文執筆を少しずつ進め、より論定の明解な文章の書き方を主体的に学んでいく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマについて具体的に説明できる。 2. よい論文とは何かを一般化できる。 3. 先行研究を批判的に読むことができる。 4. 論文の研究テーマを深め、自律的に研究できる。 							
授業の方法							
<p>授業は、受講生が各自の研究テーマに関するレポートや資料整理ノート等を作成し、授業時までに提出して説明していくことを基本とする。その理解度に合わせて、精読したり他の関連文献を紹介したりしながら徐々に研究テーマが深まる研究指導を行う。併せて、調査方法や研究倫理、問題提起など、論文作成上での構成や書き方等が適切かどうか受講生とともに検討していく。</p>							
ICT活用							
<p>課題や院生の質問等にGoogle Classroomを活用する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当しない。			
課題に対するフィードバックの方法			
課題は毎回授業時まで提出し、対面で内容確認のうえ助言を行い、改善方法を指導する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	受講生は論文作成のための進捗状況および研究計画の見直しについて説明する。	論文テーマ及び概要を説明できるようにしておく(90分)	論文テーマの資料整理をしておくこと(90分)
担当教員			
第2回	論文のテーマを具体的に明文化し、大まかな論文構成を示す。	論文の構成をもとに序論部分を完成しておく(90分)	序論部分を修正し、研究目的を明らかにする(90分)
担当教員			
第3回	論文テーマに関する代表的な先行研究文献2つを読み、自身の論文に参考になる部分を説明する。	先行研究文献2つを読み、引用できる部分を文章化しておく(90分以上)	先行研究の2文献を再度精読し、引用部分を整理しておく(90分以上)
担当教員			
第4回	論文テーマに関する最も新しい文献2冊を読破し、引用部分をレポートにまとめる。	先行研究論文を2件、熟読してまとめておく(90分以上)	先行研究を1文献追加し、引用部分をまとめておく(90分以上)
担当教員			

第5回	論文作成に必要な参考・引用文献のリストを作成し、どの部分が論文の本文に重要であるか、具体的に説明する。	これまでの先行研究で参考にした文献リストを作成しておくこと(90分以上)	先行研究の論点をまとめ、引用・参考文献リストの見直しをしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	参考文献・資料をまとめたレポートを提出し、内容について質疑応答する。	参考文献・資料の引用部分とその前後の文脈も加筆してレポートにしておく(90分以上)	研究テーマで不足している参考文献・資料を入手し、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			
第7回	学会研究発表会または研究会に向かって、論文の内容構成とテーマ等を再考し、その一部を取り上げて発表用資料を作成する。研究進捗が遅い院生は、先行研究レポート作成を継続し、論文の一部となる内容を執筆・整理して、授業時に説明する。	論文構成を見直し、問題点と仮説、その論拠と提案までをどのような流れで論証するか明文化しておくこと(90分以上)	論文構成を確立し、これからさらに研究を深める必要のある文献にあたっておくこと(90分以上)
担当教員			
第8回	学会発表会または研究会用の抄録、概要を提出する。修正・訂正が必要な部分の検討を行う。進捗の遅い院生は、論文の概要と目次を仮作成し、引き続き研究レポートを作成して、説明する。	研究発表会用の配布資料等を作成しておくこと(90分以上)	論文の題名、副題、章立て、節など、内容の校正確認(90分以上)
担当教員			
第9回	学会等研究発表会のプレゼン練習を行う。併せて研究発表に必要な配布資料の確認・検討をする。進捗の遅い院生は、研究テーマに沿ったレポートを提出し、1章分の完成に向かって論文執筆に取り組む。	研究発表会用のプレゼンテーション準備をしておくこと(90分以上)	学会発表用のスライドの再検討、配布資料の修正をしておく(90分以上)
担当教員			
第10回	公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。進捗の遅い院生は1章分を完成し、指導を受ける。	指摘された部分や問題点を再考し、完成しているところまで論文を直しておく(90分以上)	論文をどんどん書き進めていく(90分以上)
担当教員			

第11回	修士論文の書き方および構成を再度点検し、全体の30%程度「完成」したものを提出し、指導を受ける。	本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)	論文を再考して再修正し、30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)
担当教員			
第12回	論文の4割作成に向かって、書けた部分から提出し、指導を受ける。論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。	40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)	これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)
担当教員			
第13回	論文作成引き続き、作成したところまでの論文を提出し、指導を受ける。	論文の40% (5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)	各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)
担当教員			
第14回	論文作成引き続き、どんどん執筆をして、指導を受けていく。	とにかく少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第15回	論文の40%分を完成し、研究内容の概要をプレゼンする。論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを発表していく。	論文完成40%を最小の到達とし、研究内容を発表できるようにしておく(90分以上)	論文の50%完成に向かって、どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			
第16回	論文の5割完成を目指して、書けたところまで提出して指導を受ける。	どんどん、書いていく。(90分以上)	修正・加筆しながら、執筆を進めていく。(90分以上)
担当教員			

第17回	論文の5割完成に近づける。書けたところまで提出して指導を受ける。	どんどん、書いていく。(90分以上)	修正しながら、書いていく。(90分以上)
担当教員			
第18回	論文の5割を完成した段階となる。書けたところまで提出して、今後の内容構成等の指導を受ける。	5割完成になるよう、先行研究を追加して、研究内容を深めていく。(90分以上)	引き続き、執筆を続ける。(90分以上)
担当教員			
第19回	論文の6割完成を目指し、書けたところまで提出して指導を受ける。	6割完成に向かって、どんどん書いていく。(90分以上)	修正・加筆しながら、どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			
第20回	論文の6割完成に向かって、書けたところまで提出して指導を受ける。	どんどん書いていく。(90分以上)	どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			
第21回	論文の6割が完成できるよう、研究を進め、指導を受ける。	どんどん書いていく。(90分以上)	論文の修正・加筆をしながら執筆を進める。(90分以上)
担当教員			
第22回	論文の6割完成に向かって、これまでの進捗状況の報告と章立ての見直しを行う。	どんどん書いて、助言・指導が受けられるようにしておく。(90分以上)	指導された部分を再考し、書き直しておく。(90分以上)
担当教員			

第23回	論文の6割がほぼ完成している段階なので、その構成を再度見直し、増補等を検討・指導する。 最小でも論文の50%は完成して提出し、指導を受ける。	論文の執筆および参考文献の整理をしておく。(90分以上)	引き続き執筆を続け、60%以上は完成しておく。(90分以上)
------	---	------------------------------	--------------------------------

担当教員	
------	--

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題100%
その他	0	

教科書

教科書は使用しない。

参考文献

研究領域学会の論文執筆ルールに従った論文の書き方や、研究関連の先行研究論文・書籍等を適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

研究資料や文献収集に丁寧に地道に取り組み、研究に謙虚で自律した学習姿勢であることを期待する。

備考欄



2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		特別課題研究 I (春入学者用) (高橋 保夫)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分		単位	3
担当教員	高橋 保夫						
授業の位置づけ							
<p>受講生の各専門領域において深く研究したい領域の問題や事柄を論文にまとめ、発表できる能力を身につける科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めるとともに、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけ、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。1年次に「研究方法論」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究Ⅱ」に連動する。</p>							
授業の概要							
<p>修士論文完成のための具体的な論文作成指導を行う。 受講生は本論の一部を完成し、学会で発表できるようにするため、根拠を明示し論証するより良い方法を学ぶとともに、より論定の明解な文章の書き方を主体的に学んでいく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門研究領域について具体的に解説できる。 2. よい論文とは何かが説明できる。 3. 先行研究を批判的に読むことができる。 4. 論文テーマを深め、自律的に研究できる。 							
授業の方法							
<p>調査方法の学習と問題提起、ディスカッションを中心とする。 特に、先行研究や資料の収集方法と、そこから得た知見を応用して論文執筆したり、発表したりすることができるように演習形式をとる。</p>							
ICT活用							
<p>適宜、メールやクラウド等を用いて授業外でも指導を行うとともに、インターネット上の資料や参考サイトなどを共有する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
課題提出は、当日に口頭で内容確認のうえ指導するか、次回にコメントを添えて返却する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	院生は論文作成のための進捗状況および研究計画について説明する。	論文テーマの確認をして説明できるようにしておく(90分)	論文テーマの資料整理をしておくこと(90分)
担当教員			
第2回	論文のテーマを具体的に明文化していく。	論文の序論部分を完成しておく(90分)	序論部分を修正し、研究目的を明らかにする(90分)
担当教員			
第3回	論文テーマに関する代表的な先行研究文献2つを読み、自身の論文に参考になる部分を押さえておく。	先行研究文献2つを読み、引用できる部分を文章化しておく(90分以上)	先行研究の2文献を再度精読し、引用部分を整理しておく(90分以上)
担当教員			
第4回	論文テーマに関する最も新しい文献2冊を読破し、引用部分をレポートにまとめる。	先行研究論文を2件、熟読してまとめておく(90分以上)	先行研究を1文献追加し、引用部分をまとめておく(90分以上)
担当教員			

第5回	論文作成に必要な参考・引用文献のリストを作成し、どの部分が論文作成に重要であるかを確認できるよう、レポートにまとめる。	これまでの先行研究で参考にした文献リストを作成しておくこと(90分以上)	先行研究の論点をまとめ、引用・参考文献の見直しをしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	参考文献・資料をまとめたレポートを提出し、内容について質疑応答する。	参考文献・資料の引用部分とその前後の文脈も加筆してレポートにしておく(90分以上)	研究テーマで不足している参考文献・資料を入手し、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			
第7回	学会研究発表会または研究会に向かって、論文の内容構成とテーマ等を再考し、その一部を取り上げて発表用資料を作成する。	論文構成を見直し、問題点と仮説、その論拠と提案までをどのような流れで論証するか明文化しておくこと(90分以上)	論文構成を確立し、これからさらに研究を深める必要のある文献にあたっておくこと(90分以上)
担当教員			
第8回	学会発表会または研究会用の抄録、概要を提出する。修正・訂正が必要な部分の検討を行う。そして中間発表用の論文発表分を完成する。	研究発表会用の配布資料等を作成しておくこと(90分以上)	論文の題名、副題、章立て、節など、内容の校正確認(90分以上)
担当教員			
第9回	学会等研究発表会のプレゼン練習を行う。併せて研究発表に必要な配布資料の確認・検討をする。	研究発表会用のプレゼンテーション準備をしておくこと(90分以上)	発表用のスライドの再検討、配布資料の修正をしておく(90分以上)
担当教員			
第10回	発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告し、公開発表会への準備をしておく。	研究発表会で指摘された部分を再考し、修正した論文に直しておく(90分以上)	論文をどんどん書き進めていく(90分以上)
担当教員			

第11回	修士論文の書き方および構成を再度点検し、全体の30%程度「完成」したものを提出し、指導を受ける。	本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)	論文を最小30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)
担当教員			
第12回	論文作成 書けた部分から提出し、指導を受ける。 論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。	40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)	これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)
担当教員			
第13回	論文作成 引き続き、作成した論文を順次提出し、指導を受ける。	40%の部分(5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)	書きあげた各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)
担当教員			
第14回	論文作成 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第15回			
担当教員			
第16回	参考文献の書き方を再チェックし、不備がないかどうか確認する。	参考文献に不備がないか確認しておく(30分)	不備があった参考文献を正しい書式で書き直す(120分)
担当教員			

第17回	論文作成 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第18回	先行研究のまとめについて確認する。特に先行研究の読み違いがないかどうか、改めて読み込んで確認する。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第19回	大きな論の流れに齟齬や無駄がないかどうか、ストーリーとして話してみ確認する。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第20回		少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第21回	先行文献に見落としがないか、さらに最新の研究がないか、インターネットだけでなく図書館でも確認する。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第22回	これまでの執筆部分を読み直し、論拠不十分の部分や論証の飛躍がないか、あるいは説明不足の部分がないか確かめる。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			

第23回	論文の50%分を提出し、研究内容の概要をプレゼンする。論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを発表していく。	論文完成50%を最小の到達とし、研究内容を発表できるようにしておく(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
------	---	--	--

担当教員			
------	--	--	--

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の指定課題提出100%
その他	0	

教科書

プリントを配布／配信する。

参考文献

研究内容に関する先行研究を適宜紹介していく。

履修条件・留意事項等

資料や文献収集に丁寧に地道に取り組み、自律した学習姿勢であることを期待する。

備考欄



2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		特別課題研究 I (春入学者用) (渡部 淳)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分		単位	3
担当教員	高橋 保夫、渡部 淳						
授業の位置づけ							
<p>受講生の各専門領域において深く研究したい領域の問題や事柄を論文にまとめ、発表できる能力を身につける科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めるとともに、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけ、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。1年次に「研究方法論」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究 II」に連動する。</p>							
授業の概要							
<p>修士論文完成のための具体的な論文作成指導を行う。 受講生は本論の一部を完成し、学会で発表できるようにするため、根拠を明示し論証するより良い方法を学ぶとともに、より論定の明解な文章の書き方を主体的に学んでいく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門研究領域について具体的に解説できる。 2. よい論文とは何かが説明できる。 3. 先行研究を批判的に読むことができる。 4. 論文テーマを深め、自律的に研究できる。 							
授業の方法							
<p>調査方法の学習と問題提起、ディスカッションを中心とする。 特に、先行研究や資料の収集方法と、そこから得た知見を応用して論文執筆したり、発表したりすることができるように演習形式をとる。</p>							
ICT活用							
<p>適宜、メールやクラウド等を用いて授業外でも指導を行うとともに、インターネット上の資料や参考サイトなどを共有する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
課題提出は、当日に口頭で内容確認のうえ指導するか、次回にコメントを添えて返却する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	院生は論文作成のための進捗状況および研究計画について説明する。	論文テーマの確認をして説明できるようにしておく(90分)	論文テーマの資料整理をしておくこと(90分)
担当教員			
第2回	論文のテーマを具体的に明文化していく。	論文の序論部分を完成しておく(90分)	序論部分を修正し、研究目的を明らかにする(90分)
担当教員			
第3回	論文テーマに関する代表的な先行研究文献2つを読み、自身の論文に参考になる部分を押さえておく。	先行研究文献2つを読み、引用できる部分を文章化しておく(90分以上)	先行研究の2文献を再度精読し、引用部分を整理しておく(90分以上)
担当教員			
第4回	論文テーマに関する最も新しい文献2冊を読破し、引用部分をレポートにまとめる。	先行研究論文を2件、熟読してまとめておく(90分以上)	先行研究を1文献追加し、引用部分をまとめておく(90分以上)
担当教員			

第5回	論文作成に必要な参考・引用文献のリストを作成し、どの部分が論文作成に重要であるかを確認できるよう、レポートにまとめる。	これまでの先行研究で参考にした文献リストを作成しておくこと(90分以上)	先行研究の論点をまとめ、引用・参考文献の見直しをしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	参考文献・資料をまとめたレポートを提出し、内容について質疑応答する。	参考文献・資料の引用部分とその前後の文脈も加筆してレポートにしておく(90分以上)	研究テーマで不足している参考文献・資料を入手し、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			
第7回	学会研究発表会または研究会に向かって、論文の内容構成とテーマ等を再考し、その一部を取り上げて発表用資料を作成する。	論文構成を見直し、問題点と仮説、その論拠と提案までをどのような流れで論証するか明文化しておくこと(90分以上)	論文構成を確立し、これからさらに研究を深める必要のある文献にあたっておくこと(90分以上)
担当教員			
第8回	学会発表会または研究会用の抄録、概要を提出する。修正・訂正が必要な部分の検討を行う。そして中間発表用の論文発表分を完成する。	研究発表会用の配布資料等を作成しておくこと(90分以上)	論文の題名、副題、章立て、節など、内容の校正確認(90分以上)
担当教員			
第9回	学会等研究発表会のプレゼン練習を行う。併せて研究発表に必要な配布資料の確認・検討をする。	研究発表会用のプレゼンテーション準備をしておくこと(90分以上)	発表用のスライドの再検討、配布資料の修正をしておく(90分以上)
担当教員			
第10回	発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告し、公開発表会への準備をしておく。	研究発表会で指摘された部分を再考し、修正した論文に直しておく(90分以上)	論文をどんどん書き進めていく(90分以上)
担当教員			

第11回	修士論文の書き方および構成を再度点検し、全体の30%程度「完成」したものを提出し、指導を受ける。	本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)	論文を最小30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)
担当教員			
第12回	論文作成 書けた部分から提出し、指導を受ける。 論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。	40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)	これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)
担当教員			
第13回	論文作成 引き続き、作成した論文を順次提出し、指導を受ける。	40%の部分(5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)	書きあげた各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)
担当教員			
第14回	論文作成 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第15回			
担当教員			
第16回	参考文献の書き方を再チェックし、不備がないかどうか確認する。	参考文献に不備がないか確認しておく(30分)	不備があった参考文献を正しい書式で書き直す(120分)
担当教員			

第17回	論文作成 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第18回	先行研究のまとめについて確認する。特に先行研究の読み違いがないかどうか、改めて読み込んで確認する。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第19回	大きな論の流れに齟齬や無駄がないかどうか、ストーリーとして話してみ確認する。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第20回		少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第21回	先行文献に見落としがないか、さらに最新の研究がないか、インターネットだけでなく図書館でも確認する。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第22回	これまでの執筆部分を読み直し、論拠不十分の部分や論証の飛躍がないか、あるいは説明不足の部分がないか確かめる。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			

第23回	論文の50%分を提出し、研究内容の概要をプレゼンする。論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを発表していく。	論文完成50%を最小の到達とし、研究内容を発表できるようにしておく(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
------	---	--	--

担当教員	
------	--

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の指定課題提出100%
その他	0	

教科書

プリントを配布／配信する。

参考文献

研究内容に関する先行研究を適宜紹介していく。

履修条件・留意事項等

資料や文献収集に丁寧に地道に取り組み、自律した学習姿勢であることを期待する。

備考欄



2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		特別課題研究 I (春入学者用) (魯 諍)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分		単位	3
担当教員	魯 諍						
授業の位置づけ							
<p>受講生の各専門領域において深く研究したい領域の問題や事柄を論文にまとめ、発表できる能力を身につける科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めるとともに、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけ、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。1年次に「研究方法論」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究Ⅱ」に連動する。</p>							
授業の概要							
<p>修士論文完成のための具体的な論文作成指導を行う。 受講生は本論の一部を完成し、学会で発表できるようにするため、根拠を明示し論証するより良い方法を学ぶとともに、より論定の明解な文章の書き方を主体的に学んでいく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門研究領域について具体的に解説できる。 2. よい論文とは何かを説明できる。 3. 先行研究を批判的に読むことができる。 4. 論文テーマを深め、自律的に研究できる。 							
授業の方法							
<p>調査方法の学習と問題提起、ディスカッションを中心とする。 特に、先行研究や資料の収集方法と、そこから得た知見を応用して論文執筆したり、発表したりすることができるように演習形式をとる。</p>							
ICT活用							
<p>適宜、メールやクラウド等を用いて授業外でも指導を行うとともに、インターネット上の資料や参考サイトなどを共有する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
課題提出は、当日に口頭で内容確認のうえ指導するか、次回にコメントを添えて返却する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	院生は論文作成のための進捗状況および研究計画について説明する。	論文テーマの確認をして説明できるようにしておく(90分)	論文テーマの資料整理をしておくこと(90分)
担当教員			
第2回	論文のテーマを具体的に明文化していく。	論文の序論部分を完成しておく(90分)	序論部分を修正し、研究目的を明らかにする(90分)
担当教員			
第3回	論文テーマに関する代表的な先行研究文献2つを読み、自身の論文に参考になる部分を押さえておく。	先行研究文献2つを読み、引用できる部分を文章化しておく(90分以上)	先行研究の2文献を再度精読し、引用部分を整理しておく(90分以上)
担当教員			
第4回	論文テーマに関する最も新しい文献2冊を読破し、引用部分をレポートにまとめる。	先行研究論文を2件、熟読してまとめておく(90分以上)	先行研究を1文献追加し、引用部分をまとめておく(90分以上)
担当教員			

第5回	論文作成に必要な参考・引用文献のリストを作成し、どの部分が論文作成に重要であるかを確認できるよう、レポートにまとめる。	これまでの先行研究で参考にした文献リストを作成しておくこと(90分以上)	先行研究の論点をまとめ、引用・参考文献の見直しをしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	参考文献・資料をまとめたレポートを提出し、内容について質疑応答する。	参考文献・資料の引用部分とその前後の文脈も加筆してレポートにしておく(90分以上)	研究テーマで不足している参考文献・資料を入手し、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			
第7回	学会研究発表会または研究会に向かって、論文の内容構成とテーマ等を再考し、その一部を取り上げて発表用資料を作成する。	論文構成を見直し、問題点と仮説、その論拠と提案までをどのような流れで論証するか明文化しておくこと(90分以上)	論文構成を確立し、これからさらに研究を深める必要のある文献にあたっておくこと(90分以上)
担当教員			
第8回	学会発表会または研究会用の抄録、概要を提出する。修正・訂正が必要な部分の検討を行う。そして中間発表用の論文発表分を完成する。	研究発表会用の配布資料等を作成しておくこと(90分以上)	論文の題名、副題、章立て、節など、内容の校正確認(90分以上)
担当教員			
第9回	学会等研究発表会のプレゼン練習を行う。併せて研究発表に必要な配布資料の確認・検討をする。	研究発表会用のプレゼンテーション準備をしておくこと(90分以上)	発表用のスライドの再検討、配布資料の修正をしておく(90分以上)
担当教員			
第10回	発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告し、公開発表会への準備をしておく。	研究発表会で指摘された部分を再考し、修正した論文に直しておく(90分以上)	論文をどんどん書き進めていく(90分以上)
担当教員			

第11回	修士論文の書き方および構成を再度点検し、全体の30%程度「完成」したものを提出し、指導を受ける。	本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)	論文を最小30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)
担当教員			
第12回	論文作成 書けた部分から提出し、指導を受ける。 論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。	40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)	これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)
担当教員			
第13回	論文作成 引き続き、作成した論文を順次提出し、指導を受ける。	40%の部分(5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)	書きあげた各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)
担当教員			
第14回	論文作成 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第15回			
担当教員			
第16回	参考文献の書き方を再チェックし、不備がないかどうか確認する。	参考文献に不備がないか確認しておく(30分)	不備があった参考文献を正しい書式で書き直す(120分)
担当教員			

第17回	論文作成 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第18回	先行研究のまとめについて確認する。特に先行研究の読み違いがないかどうか、改めて読み込んで確認する。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第19回	大きな論の流れに齟齬や無駄がないかどうか、ストーリーとして話してみ確認する。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第20回		少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第21回	先行文献に見落としがないか、さらに最新の研究がないか、インターネットだけでなく図書館でも確認する。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第22回	これまでの執筆部分を読み直し、論拠不十分の部分や論証の飛躍がないか、あるいは説明不足の部分がないか確かめる。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			

第23回	論文の50%分を提出し、研究内容の概要をプレゼンする。論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを発表していく。	論文完成50%を最小の到達とし、研究内容を発表できるようにしておく(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
------	---	--	--

担当教員	
------	--

成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の指定課題提出100%
その他	0	

教科書
プリントを配布／配信する。

参考文献
研究内容に関する先行研究を適宜紹介していく。

履修条件・留意事項等
資料や文献収集に丁寧に地道に取り組み、自律した学習姿勢であることを期待する。

備考欄



2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科	大学院 グローバルコミュニケーション研究科						
区分	コミュニケーション・言語文化 中国語・中国文化コミュニケーション領域						
科目名	中国学特殊研究 I					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	魯 諄						
授業の位置づけ							
各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修得し、言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応える能力を身につけるための科目である。							
授業の概要							
この授業は改革・開放以来の中国メディアの変容と実態を考察し、検討する。具体的な事例を取り上げつつ、メディアと政治、経済、社会との相互関係を分析し、問題点について議論する。合わせて日本のメディア事情にも触れ、比較の視座から、メディアが果たす役割を検討し、問題意識を高める。							
到達目標							
改革・開放以来の中国メディアの変容を理解し、現在の中国メディアの実態について説明することができる。中国に関する情報やニュースに触れるときに、複眼で見る力をつけることができる。							
授業の方法							
この授業は、担当教員の解説、前もって課題とした文献についての受講者による報告、これまでの授業を踏まえての受講者の口頭発表から構成される。							
ICT活用							
Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
通常の授業で、受講生と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。口頭発表については事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	①オリエンテーション ②中国のメディア事情について説明し、履修者に関心を持つテーマを聞く。	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容を復習し、指示する文献を読むこと。(90分)
担当教員			
第2回	第1セッション(第2～4回)メディアの市場化メディア制度の変容 第2回 中国の大衆紙の急成長とその問題点について学ぶ。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第3回	第3回 メディア融合戦略とメディアの再編について学ぶ。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	第1セッションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員			
第4回	第4回 プレゼンテーション1 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			

第5回	第2セクション(第5～8) メディアと政治 第5回 中国のメディア管理体制と変容について議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第6回	第6回 報道規制(内容規制)の実態と変容について議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第7回	第7回 中国当局はSNSメディアをどう管理しているかを説明する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	第2セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員			
第8回	第8回 プレゼンテーション2 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第9回	第3セクション(第9～12回)メディアの役割 第9回 突発事件報道について学ぶ 「SARS報道」と「新型コロナウイルス報道」を比較し、問題点を検討する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第10回	第10回 世論監督(メディアの監視機能) 「焦点訪談」、「新聞調査」などのテレビ番組や、大衆紙の「調査報道」の盛衰について紹介する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			

第11回	第11回 SNSメディアの急成長とその問題点について議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	第3セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員			
第12回	第12回 プレゼンテーション3 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第13回	第4セクション 中国の国際報道と対外宣伝 第13回 中国の国際報道に関するメディア政策について説明する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第14回	第14回 中国当局はソフトパワーを高めるために行う「対外宣伝」について説明する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	これまでの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員			
第15回	講義のまとめ: 講義全体を振り返り、期末レポートの課題を提示する。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(20%)、文献の報告及び口頭発表(40%)、期末レポート(40%)

その他	0	
教科書		
プリントを配布または配信する。		
参考文献		
参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。		
履修条件・留意事項等		
1回目の授業に必ず出席すること(出席できない場合、事前に担当教員に連絡すること)。指定する文献には、報告者のみならず参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。		
備考欄		
無断欠席は必ず減点要素となる。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 中国語・中国文化コミュニケーション領域					
科目名		中国語文献翻訳実践演習A				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	野間 晃						
授業の位置づけ							
<p>日本と中国の長い年月にわたる文化交流を理解するに際し、言語文字については深い理解が必要である。本講ではそれらに関する先行文献を読み、必須の知識が得られるようにする。</p> <p>言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができるようにする。各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えている。</p>							
授業の概要							
<p>日本と中国は地理的歴史的な要因によって、早くから文化交流を進められてきたが、両国の文化交流は言語文字を媒介としたものであった。漢字文化圏とする中華文化は漢字文化圏の母体となり、日本語と日本の社会にも多大な影響を及ぼした。日中両国は長い歴史の中で、それぞれ豊かで特色ある伝統文化を形成したのである。日中両国の文化に関するさまざまな分野の先行文献を読み、分析検討して日中両国文化の比較研究をおこなう。</p>							
到達目標							
<p>①中国の主要な思想家の生きた時代背景について理解できるようになる。②各思想家の理論の概観を理解できるようになる。③日中両国文化に関する総合的かつ高度な知識を習得し、その相違点を比較検討して発表できるようになる。</p>							
授業の方法							
<p>授業時間を半分ずつ、前回の内容の復習と今回の新しい内容にあてる。</p>							
ICT活用							
<p>中国語学習にとって有用なホームページ、ネット教材を紹介し、独学において役立てることができるようにする。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

(なし)			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回授業開始時に配られるノートを兼ねたプリントの答えを記入して授業終了後に提出し、次回に返却されたものを見ながら重要点を復習する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	はじめに: ガイダンス 今後の講義内容の説明と受講にあたっての留意事項等の説明	日中文化交流を概観しておくこと。(90分)	この授業で触れる文献について理解すること。(90分)
担当教員			
第2回	黄崢「漫谈日语中的汉字词汇」A:一、<中日同形词> 1同形同义词 2同形同异词	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第3回	黄崢「漫谈日语中的汉字词汇」B:二、<日本的”国字”> 三、<正确对日语中的词汇”>	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第4回	陳舜臣『日本人と中国人』<ことだま> “同文同種”と思ひこむことの危険。中国と日本は”同文同種”ではない。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			

第5回	「古代中国哲学思想と日本への影響」① 陰陽五行説 ② 『周易』の中の八種類の図形<八卦説>	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第6回	「諸子百家」① 儒家学説の宗師<孔子> ② 儒教が日本に与えた影響	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第7回	「諸子百家」① 道家<老子・荘子> ② 「墨家」<墨子> ③ 「法家」<韓非子> ④ 「名家」	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第8回	「日中文化交流・比較の諸相」(A) ① 交流時代の区分 ② 「日中交流の道」<最初の道><最初の文献>	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第9回	「日中文化交流・比較の諸相」(B) ① 国際都市長安一日本人永住者 ② 日本人永住者の代表<阿倍仲麻呂>	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第10回	「近代日本 — 中国と西洋のかけ橋」(A) ① その背景 ② 橋をかけた人々<中国の政治改革者>	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			

第11回	「近代日本 — 中国と西洋のかけ橋」(B) ① 日中早期留学の相違 ② 日本教習<藤田豊八の貢献>	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第12回	「近代日本と儒学」日本の社会構造と儒学:急速に発展した近代日本社会において、儒学思想、とくにその倫理思想がなぜ生き続け、大きな影響力をもつことができたのか。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第13回	泰明吾・黄崢「中日两国“羞耻文化”的差異」A:(一)<异性间“耻感文化”的差異> “面子”を考える。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第14回	同上「中日两国“羞耻文化”的差異」B:(二)<同性间“耻感文化”的差異> (三)<中日耻感文化差异的原因>	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ:「日本人と中国人の精神」「水に流し、棚に上げる」のか、それとも“前事不忘、后事之師”とするのか。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	レポート、毎回提出するプリントの内容等で評価する	

その他	10	授業参加態度が積極的な場合は加点する。
教科書		
プリントを配布する。		
参考文献		
『日中文化比較研究』渡邊與五郎監修・李素楨著(文化書房博文社) 『中外儒学比較研究』張立文・李甦平主編(東方出版社) 『日本の近代化と儒学』王家驊著(農山漁村文化協会) 『幸せの日本論』前野隆司著(角川新書)		
履修条件・留意事項等		
授業に関係のある著作・論文等の文献を読み、研究を深めること。		
備考欄		
なし。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 日本語・日本文化コミュニケーション領域					
科目名		日本言語文化特殊演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	小西 正人						
授業の位置づけ							
<p>研究科本専攻の教育課程方針に基づき、各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、また言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまなニーズに応えることができるようになるための科目である。この科目は「日本語学特殊研究Ⅰ・Ⅱ」を発展させた演習科目であると同時に、他の言語関係の諸科目と関連をもつ。</p>							
授業の概要							
<p>この講義では言語一般の特徴である「構造依存性」について学ぶ。そのために生成文法入門書であるHaegeman2006を講読し、文の階層構造とその意義について学ぶ。ここでは英語について学ぶが、仮説演繹的に論証する論証法になじむことも目的とする。また後半は言語学的観点からの日本語を取り上げ、受講者同士で論じる。授業では日本語の「使い分け」用法のレベルではなく、より原理的な視点からの考察を予定している。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語の構造依存性について理解し、説明できる。 2. 主張に対する実証的な論証を理解し、自ら構成できる。 3. 英語および日本語について、文法範疇とその具体的なあらわれ、および階層構造性を理解し、他の例に応用できる。 							
授業の方法							
<p>教科書を中心に、板書(必要に応じてパワーポイント)により授業を進める。はじめは講義形式で行うが、基本的には受講者の輪読・発表方式(演習方式)で進める。適宜理解度テストを実施し、理解度を確認する。</p>							
ICT活用							
<p>メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
適宜行う確認小テストはその場で採点して返却し、理解が不十分であると思われる箇所は説明する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 言語の構造依存性について:言語の有限性と無限性を学修する。はじめて聞いた文でも意味がわかるのはなぜかということについて、簡単に説明する。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第2回	Haegeman2006: Ch.1.1「言語の科学的研究」について 言語学で扱われる論証方法について、「科学的」というタイトルの名の下に論証方法を学修する。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第3回	Haegeman2006: Ch.1.2-3「言語データと一般化」について 言語学で扱われるデータとその一般化について、特に第2節の英語データの一般化について丁寧に学修する。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第4回	Haegeman2006: Ch.1 練習問題 練習問題を通じて本章の理解度を測り、学習事項を定着させるとともに、次章に備える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			

第5回	Haegeman2006: Ch.2.1「文・動詞句の構造」について(その1) 動詞句の構造について示唆する実証的なデータを挙げ、構造を決定していく。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第6回	Haegeman2006: Ch.2.2「文・動詞句の構造」について(その2) 文・動詞句の構造についての理論的な要請について考察を行う。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第7回	Haegeman2006: Ch.2.3「指定部」について 名詞句の構造を併せて考察し、動詞句および文の構造を再考する。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第8回	Haegeman2006: Ch.2 練習問題 練習問題を通じて本章の理解度を測り、学習事項を定着させるとともに、次章に備える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第9回	Haegeman2006: Ch.3.1「助動詞のない文の構造」について 助動詞のない文の構造について、前章までの知見と方法を運用してさらに考察を行う。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第10回	Haegeman2006: Ch.3.2-4「文構造の理論的説明」について 助動詞のない文の構造についての理論的な要請および概念について、導入と考察を行う。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			

第11回	Haegeman2006: Ch.3 練習問題 練習問題を通じて本章の理解度を測り、学習事項を定着させるとともに、次章に備える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第12回	日本語の階層構造について 南不二夫の提唱した日本語の階層構造についての文章を読み、日本語の階層構造について考える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第13回	日本語の階層構造について 日本語の副詞(節)に関する論文(野田尚史2013「日本語の副詞・副詞節の階層構造と語順」)を読み、日本語の階層構造について考える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第14回	日本語の階層構造について 日本語の名詞修飾に関する論文(益岡隆志2013「名詞修飾節と文の意味階層構造」)を読み、日本語の階層構造について考える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第15回	日本語の階層構造について 日本語の用言複合体について書かれた著作を読み、日本語の階層構造について考える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表(30%)、理解度確認小テスト(30%)、授業内レポート等の課題(20%)、質疑応答(20%)	

その他	0	
教科書		
Thinking Syntactically. A Guide to Argumentation and Analysis./Liliane Haegeman/Blackwell Publishing		
参考文献		
授業内で適宜指示する。		
履修条件・留意事項等		
テキストは英文なので、英文を適切に読み日本語でまとめられることが条件となる。		
備考欄		